

令和三年 第十九期くまもと俳句ポスト

第十九期開函

日本伝統俳句協会副会長 岩岡 中正 選

特選

春塵を浴びてさびしき肖像画

大分県大分市

小野 智輔

【講評】

他の投句から推定すると「八雲旧居」の句で、八雲の肖像画の写生句です。薄く「春塵」がかかった肖像画を通して、生涯どこか淋しげだった八雲の内面までよくとらえた俳句です。生涯自分の心の故郷を追い続けた八雲の思いにふれた句で、「春塵」つまり「春の塵」という、どこか人の世の塵や人生そのものを連想させる季語がよく生かされた句です。「浴びてさびしき」は、旅する作者の思いでもあったのです。

わが輩通り賞

水前寺加勢かせいた以多た香かる小春な

熊本県熊本市

佐藤 誠吾

入選

平成はするりとぬけて椿落つ

熊本県芦北郡芦北町

田口 澄也

初たのみくじ末をたの待みに結びけり

熊本県合志市

坂田 美代子

冬の庭古今伝授の虚まじと真まじ

宮崎県宮崎市

高妻 能世

佳作

秋高し城を要の肥後の街

熊本県熊本市

山崎 綾子

肥後椿少しふくらむ群すずめ

兵庫県豊岡市

澁谷 義人

コロナ禍に沈む世の中花曇

熊本県熊本市

野口 美智子

水面みなものしらさぎさざ波と春眠

熊本県熊本市

上田 将大

向こう山打ち合う銃弾赤とんぼ

熊本県合志市

太田 行雄

葉桜の長き参道本妙寺

熊本県熊本市

坂口 美穂子

二句ばかり奉納の秋本妙寺

熊本県熊本市

菊池 一郎

小春日を一人占めして舟漕ぐ人

熊本県熊本市

鶴田 信吾

雨蛙鳴くよ皆でノーマスク

大阪府大阪市

横瀬 わかな

舌打ちの音を呑み込むマスクかな

熊本県合志市

大木 歌子

投句総数 百十三句

市内 五十六句

市外 五十七句

開函日 令和三年六月三十日